



CSR

REPORT 2018



Corporate Social Responsibility Report 2018

経営理念

わたしたち理研ビタミンの「企業理念」は、1917年(大正6年)の理化学研究所創立時から「天然物の有効利用を図る技術と商品で、人々の健康と栄養に寄与し、社会に貢献する」ことです。この企業理念を継承し「経営理念」として掲げます。

社会に対し、食を通じて 健康と豊かな食生活を提供する

天然原料を事業展開の中心に捉え日々の生活に健康・安全・安心・豊かさを満たす製品の供給を行い、食生活の向上に貢献する。

コンプライアンス精神に基づいた 事業活動を行い、社会的責任を果たす

顧客・株主・取引先・地域社会等のすべての利害関係者を尊重し、
全社員が高い倫理観に基づいた行動と法令遵守の精神で全ての事業活動を行い、
社会の一員として、社会的責任を果たし、信頼される企業となる。

フレキシビリティのある かつ創造性に溢れた企業として発展する

メーカーとして、当社固有の生産シーズ(得意な原料・技術・設備)を活用して、
多様化する、変化する、高度化する顧客ニーズに迅速・的確に対応する柔軟で創造力のある企業を目指す。

事業活動の視点・範囲を海外にも向け 「世界の理研ビタミン」としてのブランドを高める

企業活動のエリアを海外にも求め、内外のニーズに応えることにより、グローバルな企業としての存在感を高める。

人間尊重の思想に基づき 魅力ある職場をつくる

バイタリティに溢れた企業として、社員一人一人の創意工夫を尊重し、
福祉向上を図ることにより生きがいを持って働ける魅力ある職場をつくる。

目次

経営理念P2	組織統治P7	公正な事業慣行P15
トップメッセージP3	人権P8	消費者課題P16
特集：ダイバーシティの推進P4	労働慣行P9	コミュニティへの参画及び	
理研ビタミングループのCSRP6	環境P11	コミュニティの発展P17

トップメッセージ



理研ビタミン株式会社
代表取締役社長

山木一彦

理研ビタミングループは「社会に対し、食を通じて健康と豊かな食生活を提供する」ことを経営理念の第一に掲げ、良き伝統である“自由闊達な社風”を基盤においてコア事業と位置付ける「食品事業」、「改良剤事業」、「ヘルスケア事業」の各領域において新しい価値を創造するような商品を提供することで、社会の持続的発展に貢献してゆく所存です。

かつて、「良き企業人である前に良き社会人たれ」と言われましたが、今や良き企業人は良き社会人とイコールであり、社会的責任を果たすことが当然のように求められるようになってきました。

今企業に求められる社会的責任（CSR）とは「企業が社会の一員として、社会と企業の持続的な発展を目指して、主要なステークホルダーとの相互交流を深め、経済・環境・社会問題について、社会の信頼を得るために役割と責任を果たすよう、自主的に取り組むことである」という、より責任レベルが高い概念であります。

本業の事業領域において、どのように自らの社会的価値を効果的に創造してゆくかに挑戦しながら、CSR経営の精神に根差した企業文化を育み国際社会で永続的に存在感のある企業として発展してゆきたいと思っています。

■ 編集方針

本レポートは、理研ビタミングループの「みんな良し」（CSR）に対する考え方や活用内容について、ステークホルダーの皆さまに報告することを目的に作成しました。「ダイバーシティの推進」を特集して、ISO26000の7つの中核主題別に、2017年度に取り組んだ内容を中心に編集しています。

■対象範囲 理研ビタミン株式会社を中心に、

一部グループ会社に関する報告も含まれます

■対象期間 2017年4月1日～2018年3月31日
（一部対象期間外の内容も含まれます）

■参考にしたガイドライン ISO26000
（社会責任に関する手引き）

■発行 2018年7月（次回：2019年7月発行予定）

特集：ダイバーシティの推進

人によって性別、年齢、価値観、文化、国籍のバックグラウンドはさまざまです。また、ライフスタイルやキャリア、働き方の考えも多様化しています。企業組織はこうした「多様性」で成り立っています。

理研ビタミンは、従来の「自由闊達な社風」をベースに、2015年度から「ダイバーシティ推進」を掲げ、「多様性」を「個性」として尊重し、認め合い高め合うことで組織のより良い活性化を図っています。

個性の尊重により、多様な人財が能力を十分に発揮し合うことで新しい発想やアイデアが生まれイノベーションが起こる風土づくりをし、新たな価値創造型企業になることを目指しています。



多様な人財が働き続けられるために「仕事と家庭の両立支援」にも取り組んでいます。

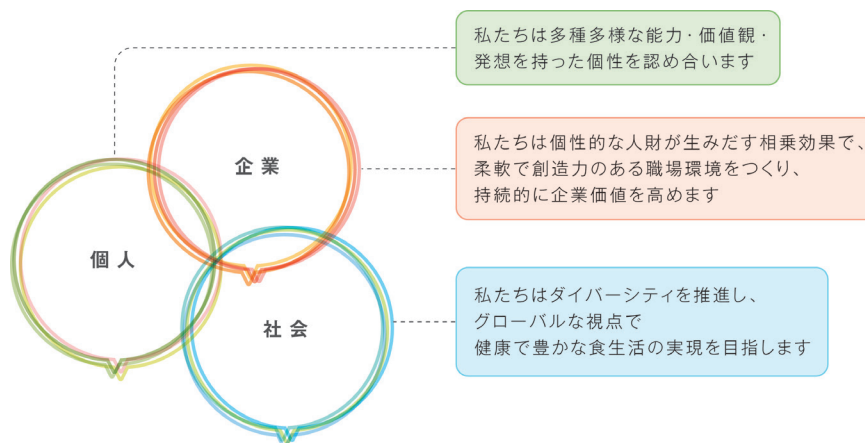
「次世代育成支援対策推進法」および「女性活躍推進法」に基づいて、『一般事業主行動計画』を策定しています。

同じ目標を目指すために

全従業員が同じ目標を目指していけるよう、「ダイバーシティ スローガン」と「行動指針」を定めました。また、今後3カ年で取り組むトピックの選定をし、施策を実行しています。

ダイバーシティ スローガン

互いの違いを「差」ではなく、「個性」と認め合い、切磋琢磨することでより良い未来を創造する力となること、新たな価値創造へ向かっていくことを意味しています。



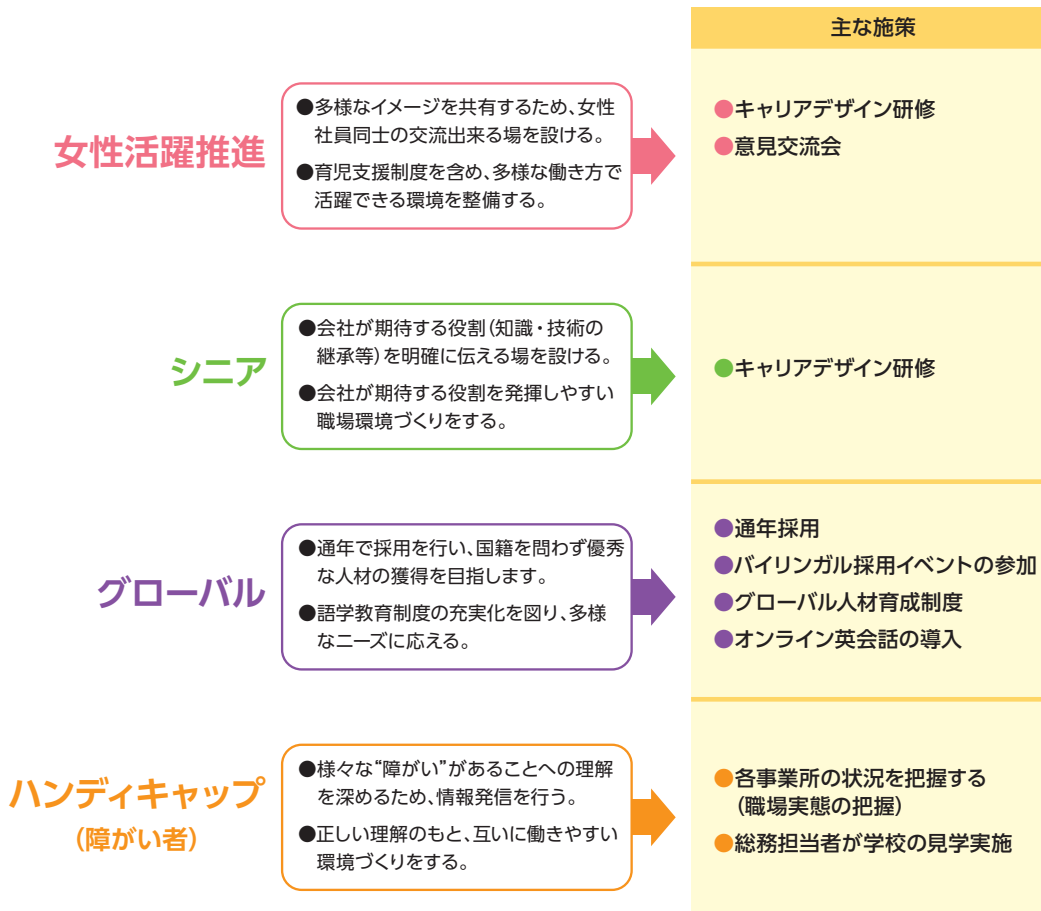
行動指針

多様な人財にとって働きやすい環境の中で、多様な人財それぞれが共鳴し、多様な価値を創造していくことを「個人・企業・社会」を通してスパイラルアップしていくイメージとしています。



3カ年施策(2015年度～2017年度)

「女性活躍推進」を試金石とし、『だれもが“働きやすく×働きがいのある”職場環境』を目指し、さまざまな活動を通して社内の意識改革を実施しています。



周知・啓発「働きやすく×働きがい」のある職場醸成

全従業員を対象に、意識調査のアンケートを実施

理研ビタミンのダイバーシティに対する認知度・期待していることのヒアリングの実施、また今後想定される「介護」についての実態の調査も併せて行いました。ヒアリングした内容を今後の「働きやすく×働きがい」のある職場醸成に反映していきます。なお、アンケートは今後も引き続き行いブラッシュアップを図っていきます。

社内ポータル「ダイバーシティ ポータルサイト」とダイバーシティ推進マガジン「nanairo」で周知・啓発しています。

会長、社長をはじめとする各経営層からの「わたしのダイバーシティ」の発信や、制度・研修等の活動報告を行っています。



年に2回(3月、9月)発刊し、ロールモデルとなる社員の紹介や有識者のコメント、他社のダイバーシティの取り組み等を紹介しています。

理研ビタミングループのCSR

理研ビタミングループでは、従業員が共通認識を持って行動できるよう、理研ビタミングループにおけるCSRの位置付けを示した「私たちの考えるCSR」と、その考えを実践するために「CSR基本方針」を定めています。

私たちの考えるCSR

理研ビタミングループは、「社会に対し、食を通じて健康と豊かな食生活を提供すること」を経営理念として掲げています。この経営理念をグローバルな視点をもって実践し、独自性のある技術と従業員一人ひとりの創意工夫により新たな価値を発信し続けることが、CSRの基本であると捉えています。

【CSR基本方針】



1. 組織統治

理研ビタミングループが事業を展開する全ての国・地域において法令を遵守し、ステークホルダーに与える影響を考慮しながら事業活動を行います。また、迅速な意思決定を行うことのできる組織体制のもとで情報を適切に開示し、透明性の高い経営を行います。

2. 人権

多種多様な能力・価値観・発想を持った個性を認め合い、ステークホルダーの人権を尊重した事業活動に努めます。

3. 労働慣行

従業員が安心して働くことのできるより良い職場環境を整えます。また、円滑なコミュニケーションのもとで能力を発揮し、やりがいを持って働くことのできる、自由闊達な風土づくりを進めます。

4. 環境

理研ビタミングループは、天然原料の有効活用を事業活動の中心に据えています。地球環境の尊さに感謝し、社会や自然との調和をはかります。

5. 公平な事業慣行

コンプライアンス精神に基づき、公正で誠実な取引を行います。また、取引先との信頼関係を大切に、互いの権利を尊重します。

6. 消費者課題

独自性のある原料・技術を活かし、安心安全かつお客さまの満足度を高める商品・サービスを提供します。

7. コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

事業資産や知見を活かして地域貢献度を高め、コミュニティと一体となった発展に努めます。

CSR推進体制

理研ビタミングループでは、CSR経営を推進するために、理研ビタミン社長を委員長とする「CSR推進委員会」を設置しています。

CSR推進委員会は、「CSR推進部」を事務局として、「CSR基本方針」にもとづきステークホルダーを重視した活動を推進し、社会の持続可能な発展に貢献していくため、理研ビタミングループのCSR活動を活性化させ、社内外に情報発信していきます。

CSR研修会

理研ビタミングループでは、2004年よりテーマに沿って学ぶ「企業倫理研修会」を年1回開催していましたが、より積極的なCSR活動の実践に向けて、2018年度より「CSR研修会」に改称し、対象を広げて実施しております。

2018年5月に開催した研修会では、外部講師を招いて、国連にて採択された2030年までに達成をめざす17の目標「SDGs※（持続可能な開発目標）」について学びました。



※SDGs: Sustainable Development Goals

コーポレートガバナンス

理研ビタミンは、コーポレートガバナンスについて、「経営理念」に立脚した事業活動を行う中で、株主をはじめとするさまざまなステークホルダーからの信頼を高めるとともに、迅速・果敢かつリスクを勘案した意思決定を行える体制を構築し、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図り、経営の最重要課題の一つとして取り組んでいくことを基本的な考え方としています。

この考え方にもとづき、執行役員制度を設けることにより意思決定・監督機能と業務執行機能を分離し、監査等委員でない取締役8名と、監査等委員である取締役5名(社外取締役4名を含む)の合計13名で構成される取締役会が迅速な意思決定を行う体制としています。取締役候補者の指名および役員報酬については、任意の諮問委員会を設置し、以下の方針にもとづいて透明性の高い決定を行っています。なお、経営の最重要課題の一つであるコーポレートガバナンスに対する会社の考え方や方針については、コーポレートガバナンス・ガイドラインを定め、開示しています。

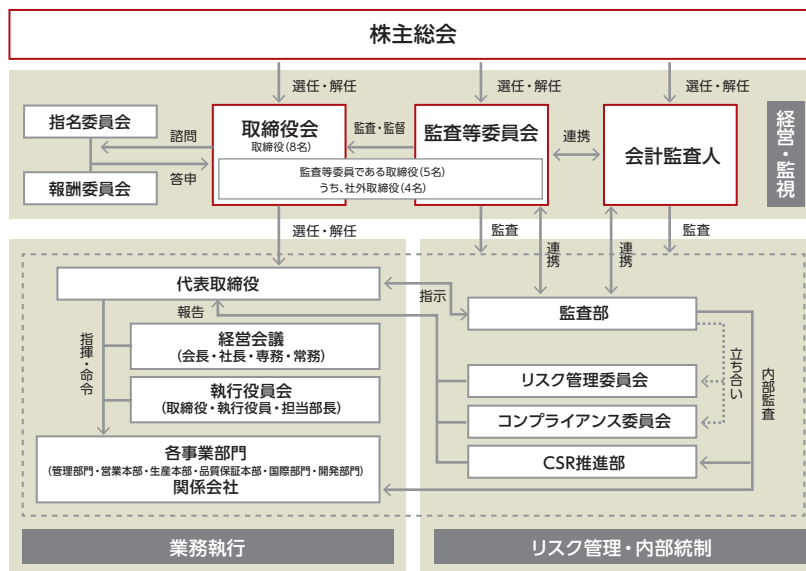
取締役候補者の指名方針

1. 取締役会は、原則として社長の提案を受け、社外取締役が過半数を占める指名委員会における審議を経て、株主の負託に応え、取締役としての職務を適切に遂行することができる人物を取締役候補者として指名する。
2. 取締役候補者は、性別・国籍等の個人の属性にかかわらず、会社経営や当社の業務に精通し、人格・見識に優れた人物とする。
3. 社外取締役候補者は、社外の独立した立場から、豊富な経験と専門的な知識に基づき、取締役の職務執行状況の監督をすることができる人物とする。

役員報酬の決定方針

1. 当社の役員報酬制度は、企業価値の継続的な向上を可能とするよう、中長期的な業績向上への貢献意欲を高める目的で設計する。
2. 役員報酬は、株主総会で決議された報酬総額の限度内において、監査等委員を除く取締役の報酬については社外取締役が過半数を占める報酬委員会における審議を経て取締役会で決定し、監査等委員である取締役の報酬については監査等委員の協議で決定する。

コーポレートガバナンス体制



リスク管理体制

理研ビタミングループの事業活動に係るリスクとしては、「安全性」、「研究開発」、「知的財産権」、「情報管理システム」、「為替変動その他外的要因」等が挙げられます。これらの予防と発生時の対処のために、当社および関係会社より選出された委員によるリスク管理委員会を設置し、年間3回の定例会を開催しています。

また、不測の事態発生時には、理研ビタミン社長を本部長とする危機対策本部を設置し、ステークホルダーの皆さまへの被害拡大を防止し、自社の損害を最小限に止めることとしています。2017年度において危機対策本部を設置する事態は発生しておりません。

2017年度 リスク管理委員会活動内容

開催日	主な議題
4月定例会	・2016年度リスク管理活動最終報告
8月定例会	・個人情報管理講習(外部講師) ・事業継続計画(BCP)関連活動報告
11月定例会	・個人情報管理状況の確認 ・個人情報保護に関するガイドブックの更新内容確認

コンプライアンス体制

理研ビタミングループでは、コンプライアンス実践の基準を定めた「行動規範」を制定しています。また、CSR推進部を事務局とするコンプライアンス委員会を設置し、各部署のコンプライアンス実行委員を中心に定期的に学習会を開く等、コンプライアンス意識の維持・向上を図っています。

コンプライアンス委員会

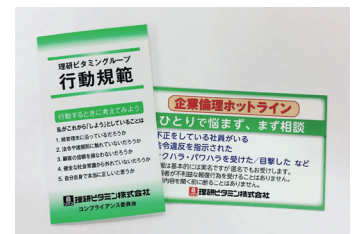
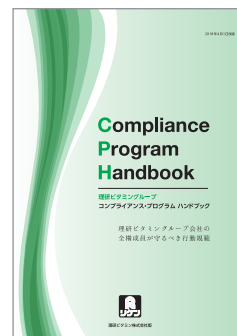
コンプライアンス経営の強化を図るために、「コンプライアンス委員会」を設置し、四半期ごとにコンプライアンス経営が適正に浸透しているかについての評価等を行っています。

コンプライアンス委員会

委員長：理研ビタミン代表取締役会長
事務局：CSR推進部
開催頻度：四半期毎

コンプライアンス意識の啓発

各職場のコンプライアンス実行委員を中心に「コンプライアンス学習会」を定期的に開催するとともに、全構成員に「コンプライアンス・プログラムハンドブック」、「携帯用カード」を配布して、コンプライアンス意識の維持・向上を図っています。



人権

ハラスメントの防止

理研ビタミングループでは、各職場のコンプライアンス実行委員を中心に「コンプライアンス学習会」が定期的に開催されています。国内各事業所においては、CSR推進部がハラスメント勉強会を開催する等、ハラスメントの防止に努めています。

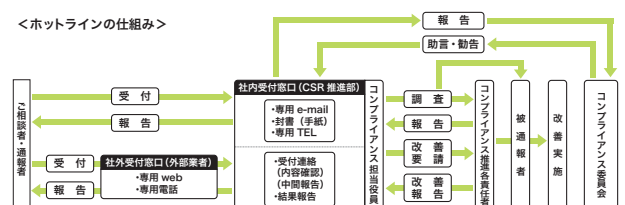


新入社員へのコンプライアンス研修

企業倫理ホットライン

理研ビタミングループでは、ハラスメントやコンプライアンス違反等の相談ができる、「企業倫理ホットライン」を設置しています。専用電話やメール、封書による「社内受付窓口」のほか、専用電話・Webサイトによる社外(外部業者)受付窓口を開設し、携帯用カードを配布して啓発する等、利用しやすい環境を整えています。また、相談者が相談によって不利益な扱いを受けないよう、社内規定で定めています。

<ホットラインの仕組み>



ワークライフバランス

理研ビタミンでは、1994年から全ての従業員が家庭と仕事の両立を図れるよう、育児・介護等の両立支援制度を設けています。現在は、ダイバーシティ推進の一環として多様なライフイベントに左右されず、だれもが働き続けられ能力を発揮できる環境を整えることで、『だれもが“働きやすく×働きがいのある”職場環境』を目指しています。

仕事と家庭の両立支援制度を充実化しました

制度・実績 ※当該年度に制度を利用している社員数

制度名	実績							
	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女
「育児・介護休業制度」	0	28	1	29	2	24	2	28
「育児・介護時短時間勤務制度」	0	37	0	36	0	41	1	42
「育児・介護のためのフレックスタイム勤務制度」	—	—	8	7	14	10	22	11
「カムバック制度」	結婚・育児・介護などを理由に退職した社員が再び正社員として復職する機会を設ける。							

周知・啓発のために仕事と家庭の両立支援ガイドブックを発行しています



育休利用者の声

女性の声

当社の女性は、育休取得は100%です！

育児を理由とした突発的な休みや早退等がありますが、理解をいただけて助かっています。責任感を持って働けるやりがいのある仕事をさせていただいており、大変満足しています。同僚の皆さんには感謝の言葉しかありません。

開発部門 30代

職場は周りに男性しかいませんが、既婚の同僚は夫婦共働きが多いので理解してもらえ、感謝しています。

管理部門 20代

男性の声

取得期間 6日間+10日間

所属する部門で初めての男性の育休取得でしたが職場の皆さんにサポートいただき希望日数を取得させていただきました。子どもとの濃密な時間をとることができ、家族でとても感謝しています。

管理職 40代

取得期間 1ヶ月間

約1ヶ月の育休を取得したいという個人の選択を尊重してくださった上司・同僚・関係者のご理解とご協力に感謝しています。今の生活を形作るうえでとても大事な期間となり、取得して本当によかったと思っています。

管理部門 30代

くるみん認定取得

理研ビタミンは、2015年度から2016年度に当社が取り組んだ「次世代育成支援対策推進法」の「一般事業主行動計画」の活動内容が厚生労働省より認められ、「くるみん認定」を取得しました。



労働安全衛生

理研ビタミンは、規模や事業内容の異なるさまざまな事業所を設置しており、各事業所に最適な安全衛生管理を推進するために、法令に定められた管理者、責任者等を確実に設置し運用しています。

工場では5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の推進や、教育により、従業員一人一人が高い危機管理能力を持って業務にあたり、本社、支店等では労働時間管理や衛生状況の向上を目指した活動を労使一体となって実施しています。

長時間労働を抑止するための取り組みとして、全社の就業管理システムを一新し、社員一人一人の時間外労働の状況把握体制を強化しています。

メンター制度

理研ビタミンでは、2016年度より工場へ配属される生産系の新入社員を対象に、メンター制度を導入しています。

この制度は、新入社員に対して複数のメンター(先輩社員)を任命し、メンターから社会人としてのさまざまな規律を学ぶとともに、メンターも新入社員から悩みや相談を受けることで、視野の広い人財育成につながるものです。メンターは新入社員の生活面をフォローし、仕事面は職場の教育者が指導するように担当を分けており、メンター・教育者が新入社員に対ししっかりと支援・フォローをできるようにしています。

メンター制度の狙い

- ①世代間の活発なコミュニケーションを通じて、密接な人間関係を形成し会社を活性化させていく。
- ②日常生活・仕事に対する姿勢・取り組みを理解させ、社会人として、「どうあるべきか(生活していくか)」を教え、ともに学ぶ。
- ③新入社員が「抱える問題・悩み」を早期に解決・解消・緩和する。

新人安全研修

理研ビタミンでは、工場へ配属される生産系の新入社員に対し、毎年4月に新人安全研修を実施しています。

目的は、「新入社員に対し、基礎的な安全教育を行い、安全意識を向上させる」ことです。

入社間もないスポンジのような吸収力を持つ新入社員だからこそ、工場配属前に本研修を実施しています。講師として、シニア社員の方々にご協力いただき、座学と実践(設備の分解・組立)、模擬体験(回転機器類の危険性)を通じ、安全の基本を学んでいます。

「安全はすべてに優先する」を忘れることなく、この研修で経験したことを配属先で活かしてもらえよう、安全への取り組みを進めていきます。



人財育成

理研ビタミンでは、「階層別研修」「キャリアデザイン研修(全階層対象)」「部署・部門別研修」「自己啓発支援」の4本の柱を軸に人財育成に取り組んでいます。多様な教育機会を提供することで社員一人一人が『自立したプロ人財』になれるような人財育成を目指しています。

2017年度より、管理職層を対象とした「既任役職者研修」「既任役職者フォローアップ研修」を新たに実施しています。管理職層の傾聴やコーチング等マネジメント力アップのため階層別研修の一環として導入いたしました。

人財育成の体系図

	管理職	中堅社員	若手社員
階層別研修	既任役職者研修	チームマネジメント研修(昇格1~3年目)	2年目フォローアップ研修(入社2年目)
	既任役職者フォローアップ研修(半年後に実施)	コース選定研修(昇格時)	新入社員フォローアップ研修(入社6ヶ月目)
	新任役職者研修(就任時)	プロエントリー研修(昇格1~3年目)	新入社員研修(入社時)
キャリアデザイン研修(全階層)		キャリアデザインを考えるワークショップ(女性社員)	3年目キャリアデザイン研修(入社3年目)
部署・部門別研修			指定通信教育 部署別研修
自己啓発支援	①オンライン英会話		
	②グローバル人財育成制度		
	③会社奨励資格所得		
	④特別公開講座		
	⑤自己啓発通信教育		

環境方針

理研ビタミングループは、社会との共生・調和を図り、地球環境の改善に努めることを目的に、環境方針（基本理念・行動指針）を定めています。

理研ビタミングループ環境方針

基本理念

当社グループは、天然原料の有効活用を事業活動の中心に据えています。
私たちは、「社会に対し、食を通じて健康と豊かな食生活を提供する」を経営理念として、地球環境を大切に、社会や自然との調和をはかりながら、事業活動を行います。

行動指針

1. 社会との共生・調和

社会の一員として地球環境保全の重要性を認識し、環境への取り組みを適切に情報開示し、社会との共生・調和をはかります。

3. 省エネルギー・資源の有効活用

生産性・作業性の向上を図り、エネルギー及び資源の効率的な利用を図ります。
また、廃棄物の発生を抑制し、リサイクルを推進します。

2. 環境影響低減に配慮した製品開発

製造、流通、消費者の使用・廃棄の各段階における環境影響低減に配慮した製品の開発を行います。

4. コンプライアンス

環境関連の法令・条例を順守します。
また、環境方針の基本理念、行動指針を理解し、社会的責任を果たしていきます。

環境マネジメント推進

環境会議の設置

理研ビタミングループでは、効果的・効率的に環境管理活動を推進していくために、PDCAサイクルをもって運営する体制として「環境会議」を設置しています。

「環境会議」では理研ビタミン社長が議長をつとめ、会議を構成する各部会が活動に関する定期報告を行い、改善指摘事項等への対応策を協議し、より環境方針に即した事業活動につながるよう、活動を推進しています。

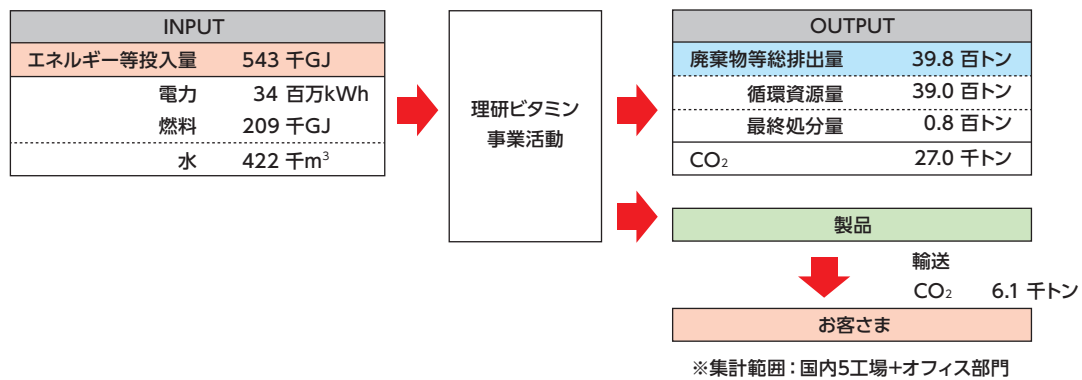


ISO14001認証取得

理研ビタミン国内全工場とオフィス部門、および海外の主力工場であるリケビタ・マレーシアで、環境マネジメントの国際規格であるISO14001の認証を取得しており、グループの環境マネジメント活動を支えています。



2017年度マテリアルフロー

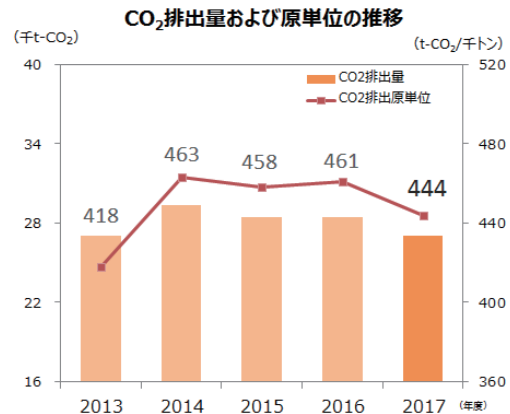
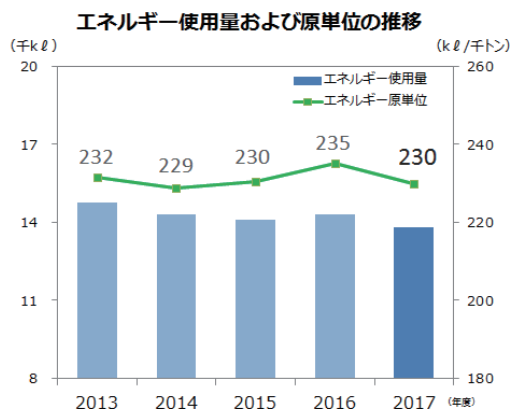


地球温暖化防止

理研ビタミンでは、企業活動による環境への負荷を考慮し、生産性の向上を図るとともに、エネルギーの効率的な利用を推進しています。

国内工場では、「製造方法の変更による設備稼働時間の短縮」、「放熱抑制によるエネルギーロス削減」といった省エネルギー活動のほか、「タンク冷却水の循環化による水使用量削減」といった環境負荷低減の取り組みを行っています。また、各職場での「ECOパトロール」や「ECOステッカー」配布による活動の周知・PRや、使用エネルギーの「見える化」にも取り組んでいます。

オフィス部門においても、会議・資料のペーパーレス化や営業車の見直しを進めています。



※集計範囲：国内5工場+オフィス部門

※原単位分母：販売数量千t

※CO₂排出係数：電気事業者別排出係数による

■ECO事業所表彰制度

理研ビタミンの国内工場では、“環境への配慮は企業が社会と共存していくために必須である”との思いから、省エネルギー活動の対象を水や廃棄物、人材育成にも広げた「ECO（環境負荷低減）活動」に取り組んでいます。

2016年度からは、ECO活動の更なる活性化のために「ECO事業所表彰制度」をスタートさせました。事業所（国内工場）の推進責任者が一堂に会する定期会議にて、それぞれの取り組みをプレゼンし、相互採点にて表彰事業所を選出しています。



ECO表彰受賞工場での授与式

■平成29年度 近畿電力利用合理化委員会

「近畿経済産業局長表彰」を受賞しました（大阪工場）

大阪工場では、エネルギー管理システムを導入して各職場のエネルギー使用量の管理を「見える化」するほか、巡視活動で工場内のエア漏れを削減し、コンプレッサーの運用・制御を最適化するという取り組み等を、工場長を中心に工場一丸となって進めてまいりました。

それらの取り組みの結果、継続的なエネルギー原単位の削減につながっていることが評価され、平成29年度近畿電力利用合理化委員会「近畿経済産業局長表彰」を受賞いたしました。



表彰式の模様

■環境省「ライトダウンキャンペーン」への参加

理研ビタミンでは、環境省の「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」に参加し、夏至と七夕の2日間、屋外・屋内照明の消灯や定時退社によるライトダウンに努めています。

2018年度は、関係会社を含めた国内の拠点が参加しています。



ライトダウンキャンペーンによる消灯（千葉工場）

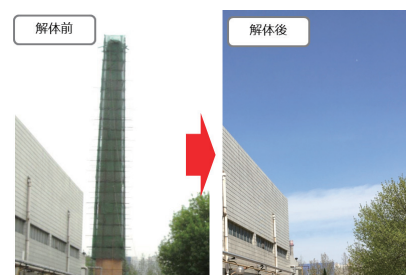
■物流部門の取り組み

物流部門においては、船便やJRコンテナを利用したモーダルシフト、トラック輸送の積載効率の向上に継続的に取り組んでいます。

2017年度は具体的なCO₂排出量削減策として、「共同配送」、「小口配送の改善」、「生産場所から地方営業倉庫への直送化」、「幹線輸送の積載効率99%以上」等に取り組みました。今後も物流品質の向上を目指すとともに、環境負荷低減への取り組みを進めます。

■海外・関係会社での取り組み

海外の事業所においても、これまでに石炭から都市ガスへの燃料転換を行う等、CO₂排出量の削減に努めています。



石炭からの燃料転換により煙突を解体（中国）

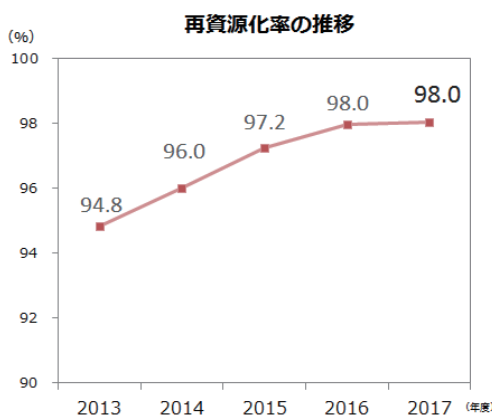
廃棄物の削減

理研ビタミンでは、廃棄物発生量の削減やリサイクルの推進に取り組んでいます。廃棄物排出量の削減に向けては、製造工程の改善や汚泥含水率の削減に取り組んでいます。

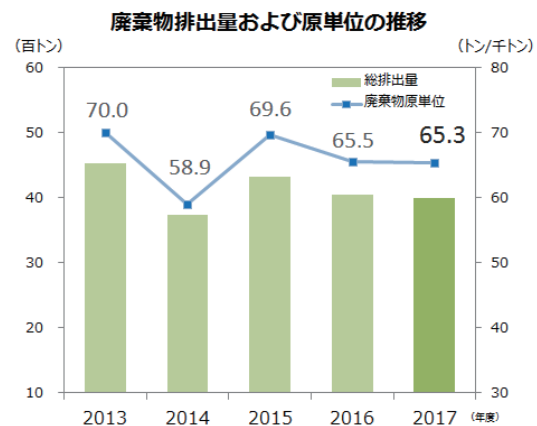
また、廃棄物の再資源化率向上のため、廃棄物分別の教育・啓発に取り組んでいるほか、廃棄物を適正に再資源化できる処理業者の選定と、廃棄物の分別処理の徹底を行っています。



廃棄物倉庫(理研食品:宮城県多賀城市)



※集計範囲: 国内5工場+オフィス部門



サステナビリティへの取り組み

理研ビタミングループは、天然原料の有効活用を事業活動の中心に据えており、「社会に対し、食を通じて健康と豊かな食生活を提供する」ことを経営理念としています。社会や自然との調和を図りながら事業活動を行い、環境負荷低減に向けた取り組みを進めていきます。

ゆりあげファクトリー

グループ会社の理研食品では、2017年7月に宮城県名取市の関上(ゆりあげ)地区に、種苗生産や海藻の基礎研究を行う「ゆりあげファクトリー」を開設いたしました。

同施設は、東日本大震災において甚大な被害を受けた関上地区の復興と地域水産業の活性化を目的とした名取市の水産業共同利用施設復興整備事業です。

ゆりあげファクトリーでは、わかめ養殖の安定生産および労働の軽減化等、海藻産業が抱える課題について、研究開発の視点から多面的に提案を行い、海藻産業の活性化に貢献してまいります。また、わかめ製品の前処理加工生産や海藻の基礎研究もスタートさせ地域の発展につなげてまいります。



ゆりあげファクトリー外観

FSC®認証紙の採用

理研ビタミングループの家庭用市販品に使用する段ボールについて、国際的な森林認証制度であるFSC®認証紙への切り替えを目指し、第一弾としてリニューアルした「リケンのノンオイル セレクティ®」シリーズに採用いたしました。

FSC®マークは、その製品に使われている原材料が責任を持って調達されたことを意味しています。FSC®マークのついた製品を選ぶことで、責任ある森林管理を世界に広げ、森林を大切にすることにつながります。



FSC®マークの入った段ボール

公正な事業慣行

マインドの醸成

理研ビタミングループでは、コンプライアンス実践の基準を定めた「行動規範」にて、“公正で自由な取引”について定めています。また、コンプライアンス学習会において「行動規範」の読み合わせを実施し、コンプライアンスマインドの醸成に努めています。

知的財産権の保護

理研ビタミンでは、特許権や商標権等の知的財産権を企業活動の維持および活性化に不可欠なものであると認識し、理研ビタミンの事業活動の自由度を損なう事がないよう権利の取得を行っています。

商品開発に際しては、他人の知的財産権を尊重し、他人の権利との重複を避けるために特許権および商標権の調査を行いながら研究・開発を進め、当社独自の技術開発、商品開発を行っています。

新入社員、開発部門および営業部門に所属する従業員に対して知的財産権に関する社内規程の説明会や知的財産権制度等の説明会を実施し、知的財産権の意義および制度概要の理解等、知的財産マインドの育成に努めています。

また、特許および商標に関する社内規程を設け、特許に関しては出願、登録した際には発明者に報奨金を支払い、特許権を実施して実績に寄与した場合には発明者に報奨金を支払い、優れた技術の創造支援を行っています。

品質保証

理研ビタミンでは、お客さまに安全・安心をお届けするために、品質保証部門を他部門から独立させ、客観的かつ一元的な品質保証体制を構築しています。

原材料調達・商品開発・製造・物流・販売まで、担当部門と連携を図り、全てのプロセスで高い品質保証が達成できるよう、以下の取り組みを行っています。

- 国内5工場でFSSC22000の認証を取得、ISO9001と合わせ、理研ビタミンの全工場が食品安全を基点とした品質保証体制の構築に努めています。
- フードディフェンスの強化として、不審者による意図的な危害の防止を目的に、製造部門の協力の下、各生産拠点にモニタリングカメラの設置を完了しました。また、工場入場ルールの見直し、全従業員に対するフードディフェンス教育の実施等、積極的な取り組みを行っています。
- お客さまからの苦情・品質不適合に対して、理研ビタミンのネットワークシステムを活用し情報共有化を図るとともに、迅速な対応を行い、再発防止を徹底しています。

適時適切な情報の開示

理研ビタミンの商品は、おいしさはもとより、さまざまな品質情報をお客さまに開示することにより、安心してお使いいただけるようさまざまな取り組みを行っています。

- 一般消費者さま向け商品は、Webサイトを通じて、商品の原材料ごとに含まれる詳細なアレルギー情報等を提供しています。
- 食品原料等、納品先業者さまからご依頼を受けた商品の規格書、調査書等は、文書発行システムを通して発行管理され、正確な情報を迅速に提供いたします。
- 新商品の表示内容は、表示適合性審査会を開催して審議し、法に則った正確で分かりやすい表示が記載されるように努めています。
- 食品表示法には随時対応を図りラベル表示の変更を行っており、順次新制度に合致した表示内容に変更しております。

お客さまとのコミュニケーション

理研ビタミンでは、一般消費者さま向け商品に関するお問い合わせ窓口として「お客様相談センター」を設置しています。お客様相談センターでは、お客さまからのお問い合わせ、ご意見、ご要望に真摯に耳をかたむけ、ご満足いただける回答をお届けできるよう日々取り組んでいます。

また、寄せられた情報を基に「お客様の声評価会議」を定期的に開催し、ご意見やご要望が商品に反映されるよう、関連部門への働きかけを行う等、継続的な取り組みを行っています。

- 商品に関連する情報のデータベースを充実させることにより、お客さまのお問い合わせに迅速かつ正確にお答えできるよう努めています。
- お客さまからのご意見、ご要望は「お客様の声評価会議」で積極的に取り上げ、必要に応じ改善要請として担当部門に伝達されます。お客さまから寄せられたアイデアは開発部門に伝達され、新商品や商品リニューアル時の参考情報としてストックされます。
- お客さまから寄せられたご意見、ご要望が具体的な改善につながった事例は、Webサイトで公開しご紹介しています。また、よくお寄せいただくお問い合わせや、Q&A等も掲載し、商品をより快適にお使いいただけるよう情報公開を行っています。

コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

企業訪問の受け入れ

理研ビタミンでは、総合学習やキャリア教育等で企業訪問を希望される、中学生や高校生の皆さんを受け入れ、社員との交流を行っています。

先生や生徒の皆さんのご要望に応じて、理研ビタミンの事業内容や社員の仕事内容を紹介し、対話を通じて将来の「仕事」への理解を深めていただけるよう、取り組んでいます。



国連WFPへの協力活動

理研ビタミンは、国連唯一の食糧支援機関である「WFP 国連世界食糧計画」の公式支援窓口である「国連WFP協会」の活動に賛同し、2005年から同協会の評議員として飢餓を無くすための活動に参加しています。

年末募金の実施

理研ビタミンでは、年末に従業員による社内募金やチャリティグッズの社内販売を行っています。集まった募金は、マッチングギフトとして募金総額に会社が上乗せして、国連WFP協会に寄付しています。



WFPウォーク・ザ・ワールドへの参加

理研ビタミンの従業員有志で、「WFPウォーク・ザ・ワールド」に参加しています。

「WFPウォーク・ザ・ワールド」は、途上国の子どもたちの飢餓を無くすために、国連WFP協会が開催するチャリティウォークです。参加費の一部は、飢餓の子どもたちの成長と就学を支える国連WFPの「学校給食プログラム」に役立てられています。



ウォーク・ザ・ワールド(横浜)

理研ビタミンの“未来を拓く食育”

理研ビタミンでは、学校給食を通して「子供たちの食」を豊かにしてきましたが、「食育授業」を通して、子供たちの健康や食生活を豊かにする取り組みも進めています。

■食育理念

1. 次世代を担う子供たちと共に、食を通じて健康な体と豊かな心を学ぶ
2. 海藻の生態と機能を楽しく学習し、自然と科学に親しむ環境を提供する
3. 海藻授業を通じて、社会や自然との関わり合いを学ぶ
4. 子供たちと共に自らも学び、社会に貢献する

■食育活動

理研ビタミンのわかめ学習は、小学校にて「総合的な学習の時間」の中で多く学んでいただいています。

授業後の児童の皆さんからの感想は「わかめが想像以上に大きくビックリした」や「体にとって良い食べ物とはじめて知った」等。毎年の授業カリキュラムに入れてくださっている学校が多く、好評をいただいています。総合的な学習の時間の他にも、家庭科の時間では実際に「わかめおにぎり」を作ったり、「社会科」の時間では5年生の「育てる漁業」の単元に合わせたりと、更に詳しく学んでいただける内容があります。

海藻の知識をより深く学んでいただけるよう今後も活動してまいります。



■五感で感じる体験型授業

わかめは、食物繊維を豊富に含み、「腸のお掃除役」として健康な体づくりにつながる食材です。理研ビタミンでは、わかめの栄養・生態・産地を楽しく学習していただけるように、授業プランをご案内しています。

■わかめパワーのひみつについて探ろう！

対 象：小学校3～6年生

実 施 単 位：クラス毎

実 施 時 間：学校授業時間内(3時間目以降) ※土日・祝日は除く

所 要 時 間：45分

実 施 場 所：理科室、家庭科室、ランチルーム等の特別教室

費 用：無料

実 施 エ リ ア：東京を中心とした千葉県・埼玉県・神奈川県、および宮城県多賀城市を中心とするエリアでの実施とさせていただきます。

※移動時間等の都合によりお受けできない場合があります。ご了承ください。

※学校職員の方が「進行役」、当社スタッフが「ゲストティーチャー」として、一緒に授業を進めます。

■「わかめ食育授業」に参加した方々からのコメント

台東区立蔵前小学校 栄養教諭 河部先生

わかめの原藻に触れ、お湯に浸けて色が変わるのを見るという学習に、児童は喜々として取り組んでいました。学校だけでは準備が難しい体験ができ、ありがたく思います。

授業後、児童が知ったことや体験したことを家庭で話し、一緒にわかめ料理を楽しんだ様子が保護者の感想からよく伝わってきました。学習内容を伝えることで知識が定着し、「わかめパワーのひみつ」を親子で共有できたことは、今後の食生活にプラスになると思います。

4年生児童のみなさんの感想

海水の中のわかめはとても大きいことを初めて知りました。

わかめが三つの部分に分かっていることも知れてよかったです。

売られているわかめは小さいけれど、実際の長さは2m90cmでした。

また、海の中では茶色で、お湯で緑にしていることが分かりました。

わかめをお湯につけると一瞬で茶色っぽかったのがきれいな緑色に変化したので本当にびっくりしました。

わかめはすごく体に良いことが分かったので、なるべくわかめをたくさん食べたいです。

私の家ではよくみそ汁にわかめを入れることが多いので、自分でも作ってみたいです。

保護者の方からの感想

「本物のわかめをみて感じたこと」

普段見かける様子とは違う、本物のわかめを見たときは思ったよりすごく大きいものなのだなと感じたそうです。部位によって、様子や食感が変わることや、体の中でどのように役立っているのかを実感できたそうです。

「わかめの大きさにびっくり！」

帰ってくるなり「2m90cmのこんな大きなわかめがあってね。岩手県でとれたんだよ!!」と興奮しながら話してくれました。

「一緒にわかめ料理を作ろう」

わかめをもらってきたので、それを使ってわかめと豆腐のみそ汁を作りました。子供と一緒に料理をするときに、次回は「わかめと野菜のスープ」を作る予定が決まりました。子供が勉強できたことを聞くと大人の私達も勉強になります。

「授業を通じて伝わること」

娘は海藻が苦手な食べようとしません。でも今回の授業を受けて少しずつ食べていくと約束してくれました。親からいくら身体に良いからと話しても伝わらなかった事が授業を通じて、海藻を食べる大切さや栄養について理解し興味を持ち食べてくれるようになり、嬉しく思いました。

わかめのヌルヌルの秘密を目で見て確かめよう！

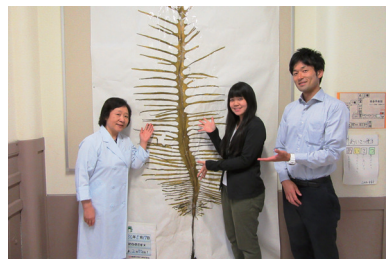


取材協力：台東区立蔵前小学校

学校給食では「海藻」は欠かせない食材です



4年生ご担任の先生方と栄養教諭河部先生





CSR

REPORT 2018

理研ビタミン株式会社

〒101-8370 東京都千代田区神田三崎町2-9-18
<https://www.rikenvitamin.jp/csr/>

UD FONT
by MORISAWA

2018年7月 発行